

進路ニュース

令和5年11月1日発行

I. 進路指導部より

今年度9月上旬に実施した3年生対象の第1回駿台ベネッセ共通テスト模試の志望動向がまとめられました。昨年度の志望者数を100とした場合、国公立大志望者指数が96、私立大志望者指数が94となりました。この数値は、18歳人口の減少に加え、四年制大学全体の志望者が大きく減少していることを示しています。特に、私立大の一般選抜離れ（年内入試志向）が顕著です。この結果から、今年度の一般選抜は、昨年度に比べ、競争が緩和することが推測できます。

今後、四年制大学の志望者総数が、入学定員総数を超えることは無いので、来年度以降も志望者の減少が続くと考えられます。

II. 「行ける」より「行きたい」大学を選ぶ

近年、地方私立大学から地方自治体を設置者とする公立大学への新設や、短期大学から四年制大学への移行、資格取得ができる学部の増設などが行われています。

これは、首都圏の大学であれば、受験生が集まりやすく、定員充足率も高くて経営が安定していますが、地方の私立大学では、地元の18歳人口の減少が加速していることもあり、存続していくための必要な対策を講じたと考えられます。

また、専門職大学という大学もいくつか新設されました。文部科学省のパンフレットによると、「特定の職業のプロフェッショナルになるために必要な知識・理論と、実践的なスキルの両方を身に付けることのできる新しい大学であり、やりたい仕事やなりたい職がすでに決まっているスペシャリスト志向の学生や、高度な実践力を身に付け、成長分野や地域産業の変革の担い手になりたい学生、専門高校で学んだ経験を活かして進学したい学生などに適した大学です。」とあります。そのほとんどが専門学校からの移行で設立されました。

さらに、現在、いくつかの学校から来年度以降の募集停止の連絡が来ており、在学生在が卒業した後は、廃校になる予定です。

ここで、皆さんが大学を選ぶ際に考えて欲しいことは、志望する大学において、学費に見合う授業や卒業後の進路が保証されているのか、実際に学校案内やホームページ、パンフレット等に掲載されている内容が行われているのか、それらが本当に自分に適したものなのか、についてです。誰もが薦める難関大学については、先日の1・2年生の進路講演会で駿台の講師の方に話をさせていただきました。やはり、伝統と実績がある大学には、安心感があります。ただし、そのような大学であっても現在の体制に満足することなく、未来を予測し、常に見直しを行って、改革を実行しています。

最終的に、どの大学へ進学するのかは、皆さんが決めることですが、高校生活で学んだことの延長上が大学での学びです。まだ学びたい内容が決まっていない生徒は、自学自習をきちんと行い、深い学びをする中で、決めていきましょう。

Ⅲ. 経験に勝るもの無し

進路ニュース9月号では、ミスマッチについて話をさせていただきました。ミスマッチを防ぐ方法は、正しい情報をたくさん手に入れることです。

9月8日(金)昼休みに行われた新潟大学説明会には、1・2年生の希望者66名が参加してくれました。また、10月5日(木)に行われた公務員ガイダンスには、1・2年生の希望者9名に加えて、沼女生18名が参加してくれました。

今後は、12月4日(月)に群馬大学の理工学部と情報学部の説明会を行う予定です。1・2年生の国公立大学希望者は、積極的に申し込んでください。

また、群馬県では、キャリア教育の一環として、インターンシップ(就業体験)を推奨しています。県内の普通高校でも、今年度から1年生全員にインターンシップを経験させることを始めた学校があります。

インターンシップを経験した大学生からの意見を2つ掲載します。

(Aさん)

私は当時、保育士になりたいと思っていた。だから、私は幼稚園に職場体験に行った。実際に行ってみると思っていたものと違ったが、そのおかげで想像力が膨らんだ。実際の業務内容を学んでいく中で、私は幼稚園や保育園の先生よりも学校の先生の方が向いているような気がした。だから、私は現在、教育学科に進学している。恐らくあの職場体験が無ければ、私は保育の専門学校に通っていたことであろう。そう考えると、あの体験は本当に貴重で大切な体験であったと思う。

⇒Aさんは、希望の職場で体験をしています。ただし、職場体験後に希望する職業を変更しました。

「別の職業の方が向いている」という感覚を得たという点で、職場体験は貴重な機会となっています。

(Bさん)

私は〇〇で職場体験をしたが、2日でもう働きたくないと感じた。この経験は、今に役立っている。莫大な量の職業から生涯働いていく職業を選ぶ際にまず必要なのは、「働きたくないと思う職業を見つけることだ」と考える。そして、いろいろな職業を見てきたときに、ようやく「天職」というものに出会えるのだと思う。そういった考えを持たせてくれた職場体験は、貴重なキャリア教育であったと今でも感じる。

⇒Bさんは、特定の職業希望を持っていませんでしたが、「体験したような職場では働きたくない」と感じた例です。「なぜ、どのような点で働きたくないと感じたのか。どのような状況なら働きたいと思えるか。」といったことが疑問点としてありますが、自分にとって「働きたくない職場や職業」に気づき、職業選択の在り方を自分なりに考えるに至ったという点で、貴重な機会となっています。

いずれの記録からも、職場体験から得たものが進路選択上の財産となっていることが分かります。

本校では、1学年の希望者に対する夏季休業中のインターンシップ以外に、利根中央病院の研修医の方との懇談会、看護体験や医療職体験、歴史資料館の仕事体験、北毛青年の家のボランティア体験などの案内をしています。

勇気を出して一歩踏み出すと、新たな発見が必ずあります。携帯電話の画面で見る世界で満足せず、自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じる経験から、貴重な情報を得ましょう。